ひかりのこ

5月園便り

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
２０２５年4月18日

「孤育て」

4月も中旬となり、園庭の雪もすっかり融け、子どもたちの歓声が聞こえるようになりました。

乳児さんたちは、少しずつですが、園の生活に慣れてきたようです。乳児の先生たちは、特にお昼ご飯、お昼寝の時間は総出で、小さな子どもたちにご飯を食べさせ、寝かしつけます。まだ慣れない中で、たくさん泣く子もいますが、先生の抱っこの中で、いつしか眠りにつきます。

幼児さんたちは、入園式が終わり、新しいお友達が各クラスに入りました。入園式の次の日は、お家の方たちと離れ、大泣きする子がいるのでは、と覚悟していましたが、誰も泣かずにすんなりクラスに入っていました。これから、園生活が始まる中で、「あれ？こんなはずじゃなかった？」とはっとして、泣き出すお子さんもいるかもしれませんが、それはそれでお子さんの自然な姿ですので、大丈夫です。

保護者の皆様の中には、はじめての子育ての方もいらっしゃるでしょう。先日「孤育て」について学ぶ機会がありました。楽しいはずである子育てを、一人ぼっちで担うことで「孤独な子育て」になってしまう、ということをあらわしています。

私は、30数年前、長男を産んで、初めての子育てをした時のことを思い出しました。
育児休暇中は、保育園に行かず日中は一人で息子を育てていました。家も引っ越したばかりで、近所に知り合いもいない、夫も、夜にならなければ帰ってこない、息子は寝てもすぐにぐずって起きてしまう。子どもはかわいいけれど、誰とも話ができない毎日は、本当に孤独でした。
そんな時、近所の奥さん二人が、ミカンを手に持って、訪ねてきてくれました。生協の共同購入のお誘いを兼ねての訪問でした。初めてできたご近所さんでした。このお二人に、どんなに救われたことか、今でも思い出します。

もし、お子さんのことで、また、ご家庭のことでご心配がある方は、園長、担任、主幹、主任、特別支援教育コーディネータにお話しください。全力で、力になります。

年中、年長の保護者の皆様、クラス懇談会、玄関でお会いした時に、新しい保護者の皆様をどうぞ宜しくお願いいたします。

みんなで、みんなの子どもたちを育てていきましょう。

園長　渡部　良子

キリスト教保育

「ヴィア・メディア」

聖ミカエル幼稚園の母体である日本聖公会は、16世紀のイギリスで起こった宗教改革によって成立したイギリス独自の教会制度に端を発しています。この教派は、他の諸教会と異なる特徴として「ヴィア・メディア」という考えを大切にしてきました。日本語に訳すると「中庸」あるいは「二つの極端な道の間の道」となります。これは、他の人たちと別の道を歩むという意味ではありません。お互いの考えや生き方を受け入れ、全体で前に進むためにはどうしたら良いかを共に考え続けようという姿勢を表しています。

両手を長く伸ばしてバランスをとる「ヤジロベエ」というおもちゃを想像してみてください。ヤジロベエがまっすぐに立つためには、両方の手の重さが均等であること、そして腕の長さを長くすることでより安定感を得ることが大切です。

子ども達が聖ミカエル幼稚園での様々な経験や出会いを通して両手を伸ばし、物事を広く柔軟にとらえる目や、他者を受け入れて共に生きる包容力、対話を求める勇気を育てていくことができますように。

チャプレン　司祭　上平　更